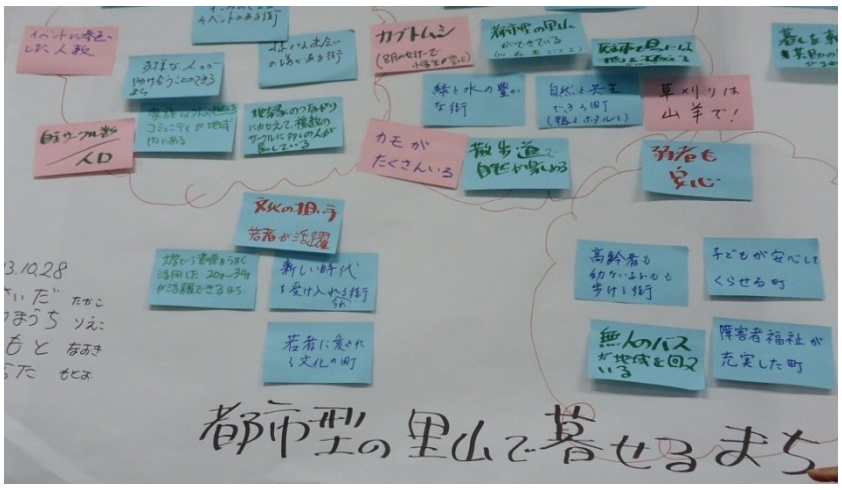
市民の視点から“幸福度の高いまち”について考える「幸せ実感調査隊」が発足！

～「第１回幸せ実感調査隊ミーティング」を開催～

本市が目指す市民一人ひとりの幸福度が高いまちに向けて、『ながくて幸せ実感調査隊』の第１回ミーティングを開催しました。まずは市民の日常生活の状況と幸せとの関係について市民意識調査などを通じて把握し、今のながくての幸せを測ることなどを目的とした大学生から80 歳代まで老若男女計１３名の長久手市民が参加しました。



冒頭で、事務局から事業の位置づけや目的などについて説明の後、本市の「ながくて幸せのモノサシづくりアドバイザー」である草郷孝好氏（関西大学社会学部教授）から、幸せのモノサシづくりの考え方とともに調査隊に期待される役割などについて助言を頂きました。

その後は、参加者が３つのテーブルに分かれてグループ討議。「10 年後の長久手市の姿」と「その状況を測るためのモノサシ」をテーマにワークショップ形式で活発な意見交換を行い、参加者からは、様々な長久手の将来像が提案されました。

今後は、新たに職員の有志も加わって、市民と職員の協働により「ながくて幸せ実感調査」の内容の検討や市民の生の声を集める活動などを進めていく予定です。

【主なご意見（抜粋）】

■将来の望ましい長久手の姿

- 『成幸者』が集うまち ながくて！
- 自分の能力が認められ発揮できるまち
- 子ども達が活き活きとしているまち
- 都市型の里山で暮らせるまち
- 暮らしを軸にした共助の経済、市民と行政の協働の確立
- 若者が活躍できるまち、若者に愛されるまち
- 子どもが明るい希望をもてるまち
- お互いに助け合えるまち、救いのあるまち

■具体的な施策アイデア

- 交通網や自転車道の整備
- 里山を増やし、香流川や池を緑で結ぶ
- 家族以外のコミュニティを地域に構築
- カモやヤギ、ホタルと共生できる
- 自給自足の経済が循環するまち

■まちづくりの状況を測るモノサシの例

- 市民一人当たりの知り合いの数
- オオタカやカワセミ等の生物の数
- 出会い・つながり
- あいさつする頻度
- 子育てしながら働く親の数
- ご近所さんにおすそ分けした頻度
- 男女共同参画率